令和７年度　学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標
気づいて　考えて　やってみる！
―　自分を大切に　人を大切に　力を合わせて　―

めざす子供像
- ○　豊かに感じる子（気づく）
- ○　考え学び合う子（考える・自分で考えて行動する力）
- ○　チャレンジする子（やってみる・やりぬく力）

めざす学校像
- ○　子供が主役の学校
- ○　出会いと感動のある学校
- ○　地域と共に歩む学校

めざす教職員像
- ○　確かな授業力をもつ教職員
- ○　豊かな人間性をもつ教職員
- ○　愛情と使命感に満ちた教職員

ふるさとを愛し、「知・徳・体」の学びを生きる力の基礎として身に付け、将来への夢と希望をもち、意欲に満ちた子どもの育成

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標（評価方法）	担当	目標値	自己評価（最終）			今年度のまとめ 来年度に向けて	評価（適切かどうか） ○適切	 △まあまあ	 ×不適切	学校関係者評価 コメント
								達成度	評価					
知	未知の課題に経験・既習・他者の意見を関係付けて解決できる児童を育成する。	○思考の「すべ」を獲得し、それをいかせる授業実践を通して、「関係付ける思考力」の育成を図る。	・各教科において、子どもたちの問題解決過程を意識した「すべ」を獲得させる授業の実施。対話を通し考えを深めたり、新たな考えが生まれたりする授業構成。授業中、自分の考えを書かせる活動を必ず取り入れる。 ・学びを下支えするために、言語活動（学校丸ごと図書館・俳句）の推進。俳句は年間十句以上作成（１年生は五句以上）、読書は学年ごとに目標冊数を設定する。 ・特別支援教育の考え方の活用。	①単元末テストにおいて、国語・算数の正答率80%以上の児童の割合。 ②標準学力調査の国語・算数でステップ３以上をとる児童の割合。（最終）	教務部	①80%以上 ②75%以上	①単元末テスト正答率80%以上の児童の割合。 国語：７９％ 算数：６６％ ②標準学力調査の国語・算数でステップ３以上の割合。	① 国語 79% 算数 66% ② 国語 70% 算数 64%	① 国語A 算数B ② 国語A 算数B	①今年度も昨年度に引き続き、思考の「すべ」を獲得させる授業を実践した。各教科の中で、対話を通して、友達の考えと比べたり、既習と関連付け、自分の考えを書かせる授業を行った。また、加計小百句苑と読書活動の充実にも全校で取り組んだ。その結果、昨年度より国語科の単元末テストの正答率は３％上がったが、算数科では目標達成ができなかった。算数科の中での基礎基本の計算力や思考力を身に付けさせる授業が不十分であったと分析を行った。来年度に向けては、つけたい力を明確にした授業を行い、授業の後半に確実に適用題の時間を設定し定着を図るようにする。また、単元テストまでに達成状況を一人ひとり把握し、ICTドリルや復習プリント、宿題などを利用して確実な学力の定着を図る。正答率８０%以下の児童については、テスト結果の要因を児童と振り返り、繰り返し復習させる。来年度は、令和９年度の広島県小学校理科教育研究大会に向けて、理科を中心に、対話を通して、問題解決していく研究を行っていく。 ②単元末テストと同様の課題があり、①の取組を確実に行っていく。	7名/8名中	1名/8名中		・子ども達には、できる喜びを味わわせてほしいです。そのことが自信につながります。 ・引き続き、達成度向上に向けて努力いただきたい。
徳	自他を尊重する豊かな人権感覚を持った児童を育成する。	○積極的生徒指導の推進や自他を尊重する学級づくりを通して、豊かに感じる（気づく）子どもの育成を図る。	・児童会活動、委員会活動を充実させ、加計小トライ「あはそろじ」を意識化させていくことで児童一人一人が校内の諸課題に気づく力を高め、自分から改善に向かうような仕掛けの工夫。 ・学級活動の充実をベースとする集団作りに取り組み、児童が自分たちでくらしを見つめ、課題を設定し、解決、及び実行していく力を高める。	①「あはそろじ」に関する児童アンケートの項目において、肯定的回答の割合。 ②学級活動における自治的な課題解決活動の実施回数。	生徒指導部	①85%以上 ②年間５回以上	①「あはそろじ」に関する児童アンケートの結果は、５項目平均91.2%であった。 ②学級活動における自治的な課題解決活動の実施回数は平均7回であった。	①107% ②140%	A A	①各項目ごとに見てみると、「廊下を静かに歩く」という項目のみ70.1%で、目標値を達成しなかった。廊下で児童に声をかけたり、全体指導を行ったりしたが、成果につながらなかった。来年度は、掲示物を掲示したり、定期的に全校朝会の中で話をしたりする。また、児童同士で声をかけ、静かに歩けるようにする。 ②「学級活動の手引き」を配布したことで、話合い活動を仕組みやすくなり、何度も話合いを経験することができるようになった。そのため、日常的な課題に対しても、話合いを通して解決できるようになってきた。来年度も、手引きを用いて指導をしていく。□	８名/８名中			・全てのこどもたちが成長を実感できる教育を望みます。 ・努力をたたえます。 ・これからは、コミュニケーション能力が大切になってくると思われます。話し合い活動はとても大事だと思います。
体	健康・安全への意識を持ち、自らの生活をよりよくする実行力のある児童を育成する。	○体力の向上を図る。 ○生命の安全教育の実践を通して心と体を整える。	・走力・持久力に対する重点的な取り組みを通して体力の向上を図る。 全校体力テストは６月、再体力テストは１０月頃に実施する。 ・生命の安全教育を各学年の発達段階に応じて実施し、学級だよりで保護者に内容を伝える。	①体力テストでの５０ｍ走の記録が、前回の自己記録を上回った児童の割合。 ②生命の安全教育を実施し、学級だよりで内容を伝えた学年の割合。	保健体育指導部	①70%以上（中間） ②100%（年間）	①マラソン大会に向け、火曜木曜の業間に走る取組を実施。冬季の体力向上のため、たてわり班での長縄跳びを実施した。 ②各学級実態に合わせた生命の安全教育2回目を全学級で実施し『学級だより』で保護者に伝えることができた。	② 100 %	A	①11月27日に実施したマラソン大会に向けて、業間に3分間程度の持久走をした。また、その日を「外遊びDay」として休憩時間にしっかり体を動かすことができるように工夫した。冬季でも運動できるように、体育館でたてわり班での長縄跳び運動を実施している。新しい縄を購入し、体育の時間にも縄跳びを取り入れ効果的に運動できている。 ②生命の安全教育が継続した取組になるよう工夫した。『学級だより』は次年度の担任に引き継げるようにファイルにして閲覧できるようにした。新規購入した絵本やパワーポイント資料、紙芝居、各学級で実施した指導案や掲示物などの教材は保管場所を決め、いつでも活用できるようにし来年度に引き継いでいく。	８名/８名中			・努力をたたえます。 ・②について、学年末で全学級実施ということでよかったです。
信頼される学校	地域・保護者とつながり、子どもが創る、大人が支える学校を構築する。	○学校生活を支える家庭環境や、子育て・学びへの考えの醸成を図り、地域・保護者とつながる活動の推進を図る。	・総合的な学習の時間の充実を図り、地域・保護者と創立150周年を盛り上げる機運を高め、地域が好きな子どもの育成を図る。 ・「子どもとたくさん話そう　大人も話そう」をPTA目標とし、保護者と学校が気軽に話せる場をつくり（学級懇談会の待ち時間など）保護者にとってもウェルビーングな学校づくりを行っていく。	①保護者アンケートにおいて「学校の特色ある活動に満足している」の肯定的評価の割合	総務部	①95%以上	①保護者アンケートにおいて「学校の特色ある活動に満足している」の肯定的評価の割合95%	① 100%	A	①150周年記念行事「五サー市」「人文字づくり」では、地域・PTA・保護者と連携し大成功に終わることができた。総合的な学習や生活科の時間に地域に出かけ、地域の方からたくさんのことを学ばせていただいた。五サー市では、地域学習の成果やマーチング、神楽の発表など子供たちの姿をたくさんの方に見ていただきほめていただいた。また、PTA・保護者も大人バンドやコーラスなどで主体的に祭りを盛り上げた。学校・保護者・地域のつながりが深まる思い出に残る150周年記念となった。 来年度に向けては、今後の総合的な学習の時間の進め方について整理するとともに、来年度以降の五サー市の参加の仕方について検討していく。	８名/８名中			・校長先生をはじめ、教職員の皆様1年間本当にお疲れ様でした。不登校児童が来年度1日でも多く登校できますよう願っています。 ・努力をたたえます。

評価基準		
	A	達成率が９０%以上
	B	達成率が８０%以上９０%未満
	C	達成率が６０%以上８０%未満
	D	達成率が６０%未満